

教科書について

「楽しく学べて、コミュニケーション力が付く教科書」を求めて

考えてみませんか？

皆さんはこれまで、どんな教科書に出会い、
どんな「付き合い方」をしましたか。

長年、既存の教科書について疑問を持ちながら考え、
試行錯誤を重ねた現場の教師たちから『できる日本語』という
新しい教科書が生まれました。その壮大な作業の過程で
教師が学んだこと、考えたことを、皆さんと
共有していきたいと思います。

第 11 回

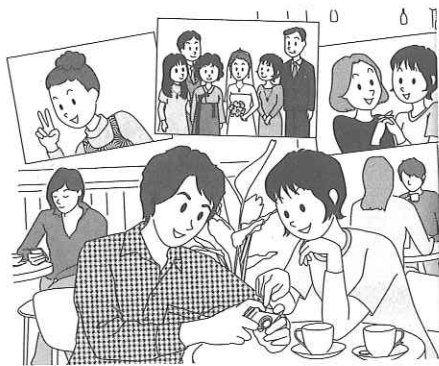
「学習者が話したくなる教科書」とは

「学習者が話したくなる教科書」を探るヒント

教科書についていろいろ考えてきましたが、今回は「学習者が話したくなる教科書」というテーマで進めましょう。これまでの話と重なる部分もありますが、いくつか例を挙げて説明します。

○場面・状況が明確であること

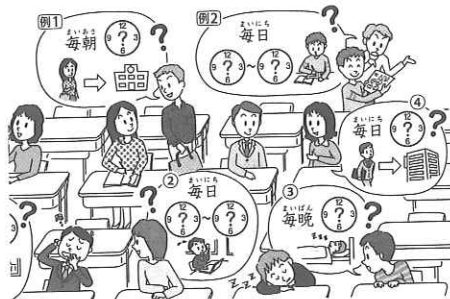
教科書に「イさんはどんな人ですか」「面白くて、親切な人です」という会話が出ていても、学習者がそれを使って話したくなるとは思えません。しかし、喫茶店でお茶を飲みながら、デジカメを友達に見せて、「これ、イさん」と説明している場面だとしたら、「そうか、これが友達のイさん！どんな人かな？」と聞きたくなってきます。こうした場面・状況設定が教科書にしっかり出されていることが大切です。



○その会話に必然性があること

よく教室で、「毎日、何時から何時まで勉強しますか」という質問が投げ掛けられます。でも、こうした質問は何のためにするのでしょうか。

次の絵の例2を見てください。テストで100点を取ってニコニコしているクラスメイトを見て、「わあ、すごい！自分と全然違う。いつもどれぐらい勉強しているんだろう？」と、日頃の勉強時間を聞いてみたくくなります。これだったら、「質問のための質問」ではなく、必然性のある質問となります。



○「なりきり仕掛け」があること

よく教科書の中で、写真やイラストが提示され、「この人は、何をしていますか」「△△さんはどの人ですか」という練習があります。これは、やはり「練習のための練習」になってしまいます。しかし、「ペアで話しましょう。イラストの中の人物になりきって、話しましょう」とい

うスタンスで教科書が書かれていれば、話は変わってきます。私たちは、これを「なりきり仕掛け」と呼んでいます。



どんな教科書も教師の使い方次第!

さて、どんなに学習者が話したくなる仕掛けがいっぱい詰まった教科書を使っても、教師が「教え込む」という姿勢では、意味がありません。どんな教科書でも、教師の使い方次第、土壌によってアジサイが青くなったり、赤くなったりするのと同じです。OPI(口頭能力インタビュー試験)のマニュアルに、こんな言葉があります。

「学習者が言語運用能力を向上させたのであれば、教師の取るべき役割は、自分自身を『舞台上上がった賢人』に見立てるような伝統的なものではなく、むしろ、『側に付き添う案内人』といったようなものになるはずである。すなわち、教師側からの話を最小限に抑え、学習者が会話に参加する機会を最大限に増やすという役割である」

ここで、もう一度、自分自身を振り返ってみませんか。また、仲間に授業を見てもらい、コメントしてもらってはいかがでしょうか。自分では気が付かない「自分のクセ」が見えてくることでしょう。

そうです! 「学習者が話したくなる教科書とは」の答えは、「どんな教科書／何という教科書」ではなく、「教師の姿勢次第」なのです。

教

師2年目のA先生は、教員室に戻るやいなや、嬉し^{うれ}そうに、授業後のエピソードを話しはじめました。

A先生の今日の授業は第3課「どんな毎日?」。日本語学習を始めて2週目の学生は、朝ごはん、勉強時間、ネット、新聞……いろいろなことを学びました。

チャイムが鳴って、授業終了。「みんな使えるようになったかなあ〜」と思いながらホワイトボードを消していたA先生の目に、こんな光景が……。

カバンを肩に掛けながらパクさんが大きなあくびをしました。それを見たマリナさんがパクさんに質問を始めました。

「パクさん、毎晩、何時に寝ますか」

「2時に寝ます」

「毎晩、何をしますか」

「ゲームをします」

気が付くと、A先生も「私も2時に寝ます」と、笑顔で会話に参加していました。

わあ、自然に使ってる! 使ってる!



嶋田和子

イーストウエスト日本語学校副校長。
外資系銀行勤務の後、専業主婦を経て日本語教師。
現在は、日本語教育業界を牽引するベテランの一人として、学習者への日本語教育はもちろん、教師養成にも当たる。
著書に『目指せ、日本語教師力アップ!』
—— OPIでいきいき授業』(ひつじ書房)、
『キムチと味噌汁—韓日、異文化交流のススメ』(教育評論社)、
『ワイワイガヤガヤ 教師の目、留学生の声 — 異文化交流の現場から』(教育評論社)など、多数。
『できる日本語』(アルク)監修

連載ラインナップ

- 第1回 教科書を考えるって面白い!
- 第2回 どんな教科書と付き合ってますか?
- 第3回 タスク先行型授業にチャレンジ!
- 第4回 「わかる」から「できる」へ
- 第5回 漢字学習も「できること」重視!
- 第6回 「プロフィেশンシー」で、教師力アップ! 1
- 第7回 「プロフィেশンシー」で、教師力アップ! 2
- 第8回 21世紀の日本語教育は“対話”重視 1
- 第9回 21世紀の日本語教育は“対話”重視 2
- 第10回 学習者の自律的な学びを考える
- 第12回 対話で新たな日本語教師人生を!